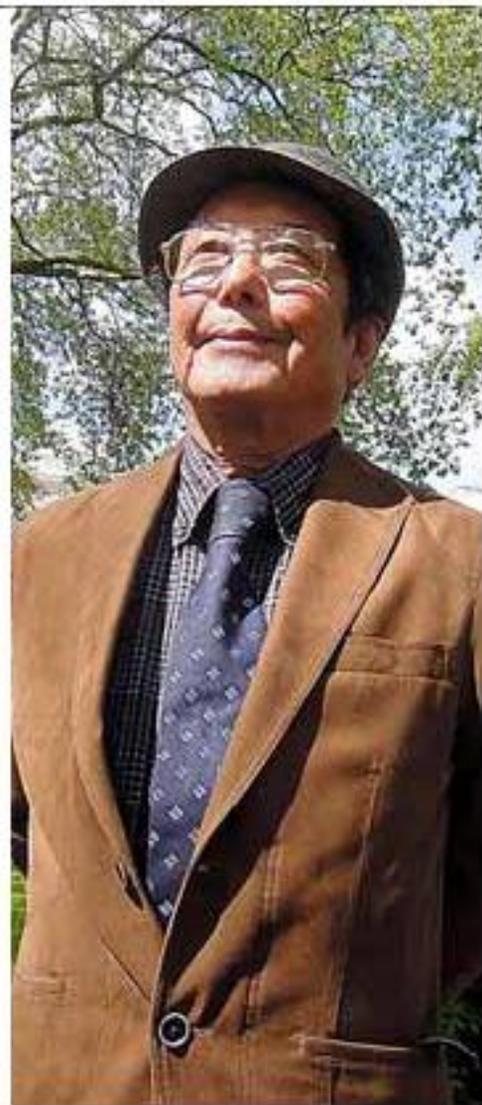


ひと

英国ウェールズの「独立」を掲げて町議に当選した

しまぎき あきら
島崎 晃さん(71)

政治を学ぼうと栃木県から英国に渡った青年が、43年を経た5月初め、英西部ウェールズの町カーディガンの町議会議員になった。

地元には「Jack Bara Caws」と名乗る。Bara Cawsはウェールズ語でパンとチーズ。あいさつで「お陰さまで元気です」を意味する。

日本人に似て恥ずかしがり屋でセンチメンタル。でも取れたての野菜をお裾分けしてくれるなど情がこまやか。そんなウェールズの人々に魅せられた。

1973年に開いたカフェの2階が、英国からの分離独立を求めるウェールズ民族党の活動家のたまり場。英語の標識をウェールズ語に書き換える血気盛んな若者

も多かった。「強きをくじき弱きを助ける話に日本人は弱いんですよえ」。ウェールズ民謡を歌う人々の輪に次第に溶け込んだ。

英国籍を取り、日本語を教える仕事に就いていたが、面倒見の良さを知る仲間に頼まれて民族党から立候補。2位で当選した。

今は標識には英語とウェールズ語が併記され、権利は向上したかに見える。でも「なんでも英国に依存し、自信を失っているように思えるんです」。とはいえ、町議としては独立だけ叫ぶわけにもいかない。人口約4千人の海沿いの町は失業が深刻だ。「乳製品が自慢。日本から工場を誘致したいねえ」。公約は第二の故郷への恩返しだ。

文・写真 沢村直